

活動支援団体名	認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ	作成日	2025年3月	
活動支援担当者名	山角直史、出原道恵	支援期間	2025年2月～2027年2月	
支援対象団体名	やちよ子どもネットワーク	2年後の目指す姿	【組織】 ヒト、モノ、カネがしっかりとまわっている継続的に支援してくれる企業・個人がいる法人化社員への給与支払い、有償ボランティアを雇える作業分担が進む	
支援団体担当者名	廣瀬ひろみ、佐藤明日香		【事業】 市内の子どもに関わる団体・個人が登録やりたいことがすべて実現できるオリジナル商品をつくることも食堂が増える市内の子育て世帯がやちよ子どもネットワークを知っている	

No.	実施内容	スケジュール	実施主体	期待する結果（支援対象団体）	期待する結果（むすびえ）	関連する短期アウトカム
1	コミュニティオーガナイズング研修	2025年7月	むすびえ	・自団体のリーダーシップを育み、地域の人を巻き込んでいく力をつけるとともに、これまで実践で行ってきた市民活動を戦略的に整理する ・活動に参画する人が何を求めているのか見極め、それぞれに合った形でかかわってもらう体制づくりについて学ぶ	・やちこのビジョン、ミッションを言語化し、市内で活動する団体個人、行政や社協と連携するための方法を、やちこと具体的に検討する際の土台となる	支援対象団体をハブに、こども食堂運営者や地域のステークホルダーが連携している状態
2	広報・FRセミナー、戦略策定伴走	2025年10月、11月	むすびえ	・組織基盤整備として重要視しているファンドレイジングについて学び、実際に資金調達できるようになる ・年間を通じた助成金募集の流れを理解し、適切なタイミングで準備・応募できるようにする ・自団体の活動計画と助成金の募集時期を照らし合わせ、戦略的に資金調達を進めることができるようにする	・重点課題である資金調達について、様々な選択肢を助案し、ファンドレイジング計画策定につなげる	支援対象団体が広報FRの基礎を体得し、団体の強みや課題が整理されてドナーピラミッドの作成や中期計画アクションプランの策定など中間支援団体として運営資金を獲得するための戦略が策定されている状態
3	ファンドレイジング専門家による伴走支援	2025年11月～2026年3月	むすびえ	・組織基盤整備として重要視しているファンドレイジングについて学び、実際に資金調達できるようになる ・助成団体ごとの支援方針や評価基準を把握し、自団体の活動に適した助成金を選定できるようにする ・限られた時間の中で、重要な情報を効率よく収集・整理し、申請書の質を向上させるスキルを身につける	・ファンドレイジング計画・実行について、専門家の知見を注入することで、資金調達のサイクルを回せるようになる	支援対象団体が広報FRの基礎を体得し、団体の強みや課題が整理されてドナーピラミッドの作成や中期計画アクションプランの策定など中間支援団体として運営資金を獲得するための戦略が策定されている状態
4	基盤整備セミナー開催	2026年2月、9月	むすびえ	・人員の整理について学ぶ（本来なら法人化を進めている今の時点で受けたかった） ・組織の運営における業務を整理し、メンバーの強みや状況に応じた適切な役割分担を行う ・業務の風人化を防ぎ、誰でも対応できる仕組みを構築することで、組織の持続可能性を高める ・組織運営に関する事務作業の課題を洗い出し、効率的な進め方やツールの活用方法を学ぶ ・業務プロセスを見直し、省力化できる仕組みを導入することで、活動の本質的な部分により多くの時間を割けるようにする	・ネットワーク会員の増加、事業の拡大を見据え、組織体制の構築が進む	支援対象団体が実行団体として応募するため事業運営が適切になされ、実績が証明できている状態
5	未来対話ワークショップ	2026年12月	むすびえ	・地域のステークホルダーとの新たな出会いを期待するとともに、やちよ子どもネットワークの認知を高め、ともに地域の未来を考える ・相手のニーズや期待を把握し、共通の目的や協力の可能性を探る ・対立や意見の違いがある場合でも、建設的な解決策を導き出しながら、お互いの強みを活かし合い、より良い社会の仕組みを生み出す方法を探る	・行政・社協に参加してもらい、八千代市の子ども・子育てで支援をともに考え、行動する気運が高まる	支援対象団体をハブに、こども食堂運営者や地域のステークホルダーが連携している状態
6	学びあいプラットフォーム	2025年4月以降	むすびえ	・仲間がいることを知り、活動の中での気づきを共有することで、自団体の活動に活かす ・他の地域ネットワークが直面している資金面の課題を知り、自団体との共通点や違いを理解しながら、資金調達や運営費確保の工夫や成功事例を学ぶ	・他団体の活動や成功・失敗事例などを知り、やちこの活動充実のヒントを得る ・他団体とのピアラーニングを通して、これからの活動への活力を得る	学びあいプラットフォームが立ち上がり、本事業終了後も定期的な勉強会が自発的に継続できて地域ネットワーク団体の事業に活用されている状態
7	多世代交流イベント 地域の支援団体と市内の飲食・物販店舗が出店するマルシェ型イベントを実施	2025年5月	支援対象団体	・ネットワークの認知度向上と団体間の連携促進 ・来場者に地域の支援活動を紹介し、地域への関心を深め、社会参加の意欲を引き出す ・芝生の真ん中に子ども主体のブースやワークショップを配置し、その周囲を地域の支援団体や市内の飲食・物販店舗のブースが囲むことで、子どもを中心に多世代が自然に交流できる場をつくり、「こどもまんなか」の理念を視覚的にも体现する	・やちこの活動が認知され、市内で活動する団体個人との連携が促進された結果、ネットワーク会員が増える	支援対象団体をハブに、こども食堂運営者や地域のステークホルダーが連携している状態
8	ホームページの作成 将来的には、市内の支援情報や体験情報を一元化した社会実践メディアとして育てる	通年	支援対象団体	・地域の活動に簡単にアクセスでき、支援活動の普及と交流を促進する ・地域社会の支援活動を可視化し、協力体制を強化 ・支援を必要とする人々にピンポイントでリーチできる仕組みを作り、そつなく情報にアクセスできるプラットフォームを提供する	・やちこの認知度・信頼度が促進される ・子育て世帯が市内の子育て支援情報を収集しやすくなり、アクセス数が増加する ・やちこのネットワーク会員が増える	支援対象団体をハブに、こども食堂運営者や地域のステークホルダーが連携している状態
9	人材・物資・資金の按分と互助活動 ネットワーク会員が提供する支援事業において、人材、物資、資金を適切に按分し、効率的にリソースを活用	通年	支援対象団体	・地域全体の支援体制を強化し、より広範囲にわたる支援を実現する ・地域課題に迅速に対応できる体制を構築 ・効率的な循環を促進することで、過剰や不足をバランスよく調整し、地域資源の無駄を減らす	・ネットワーク会員の活動・人材を活かし合うことで、フードパントリーの拠点が増え、困窮家庭等の支援がより充実する ・活動の負担が軽減され、やちこの運営により深く参画できるようになる	支援対象団体をハブに、こども食堂運営者や地域のステークホルダーが連携している状態
10	次世代のソーシャルセクターにおける担い手の育成 ファンドレイジング、広報、マーケティング、ブランディングなど、幅広いスキルを学べる体制を整え、社会的インパクトを与える活動を担う人材を育成	通年	支援対象団体	・地域の社会活動が強化され、持続的な成長が可能となる ・若者が経済的な不安を感じることなく、ソーシャルセクターでのキャリアを築けるような社会を実現し、それが当たり前のこととして広がること ・デジタルスキルを向上させ、事務作業の負担を減らすための知識やスキルを身につけることで、本来取り組むべき課題に集中できる環境を整えること	・担い手を地域に育成することで、持続可能な活動となる体制の基盤づくりとなる	支援対象団体をハブに、こども食堂運営者や地域のステークホルダーが連携している状態